



第 63 回会津若松市民文化祭 参加行事
国際スペシャル音楽と伝統芸能 会津若松大会に寄せて

障害はあってもピアノは弾ける



2024 年 9 月 20 日
NPO アンハードノートピアノパラ委員会

会長 迫田 晴雄

手や足・体が不自由だということで、ピアノは弾けないとあきらめていませんか？
ハンディがあっても、実際に立派に活躍しているピアニストはいるのです。

それぞれの障害を工夫して楽しくピアノを学んでいる人たちがいます。

ピアノは10本の指で弾くものと思い込んでいませんか？
例えば、手や指の欠損、または精神的な障害があるとうまく弾けるはずがないと思い込んでおられる方が、まだまだ多いのです。

でも、私はピアノを指導する中で、彼ら彼女らの頑張りや素晴らしい能力に驚かされています。

障害に対するこうした誤ったイメージを払拭すること。
障害者自身の社会参加と自己実現を支援すること。
それが私たちの究極の目的です。

もちろん、ピアノの練習は楽しいことばかりではありません。
根気よく地道な練習を積み重ねなければなりません。

つらい練習には、目標と希望が必要です。
豊かな才能には、輝かしいステージと拍手が必要です。

さあ、これから皆さんのとっておきの演奏を、どうぞお楽しみください。

全ての武器を楽器に 全ての戦場を花園に
全ての人に愛と希望を 戦争より祭りを

